



徳成寺 寺とかわら版

第132号 2017年12月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

2017年も残すところ、1ヶ月を切りました。もういくつ

寝るとお正月♪と待ち遠しかったのは幼い頃です。昨年出版された

直木賞作家・佐藤愛子さんのエッセイ集「90歳何がめでたい」が

売れているそうです。年を重ねることを、素直に喜べないので笑い飛ば

したい、そんな多くの人の気持ちを代弁していることが人気の秘密でしょう。

裏を返せば、いかに人間が人生に期待していることが多いかを表しています。

星野富弘さんの詩「たんぽぽ」の一節を思い出します。「人間だってどうしても

必要なものはただ一つ 私も余分なものを捨てれば 空がとべるような
気がしたよ」と。余分なものを捨て、心から喜びに満ちあふれる1年を
送れるといいですね。

*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

発行責任者
住職
大山健児
坊主
大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

どうも、長男です。

地元に戻ってから門徒さんからいつもかわら版を楽しみにしています、という話を聞かせて頂いて読んで下さっているんだ、としみじみ感じている今日この頃です。関東にいた頃は全く意識をしていなかったもので、読者がいる、ということ意識するとちょっとだけドキドキしますね。

さて、今回も月並みで申し訳ないのですが、ご飯の話。食べ盛りの頃から比べると、相対的に食事が減ったのですが、いざ、お腹が空いたとなると、かなりもりもり米を食べてしまうので、母は多めにお米を炊きます。

そして、冷やご飯に持ち越しになるのですが、冷やご飯が出来ると、炒飯とかオムライスとかを作ってみたくなるわけです。自炊の日々から遠ざかっていたので、ちょっと不安でしたが美味しそうなオムライスが出来ました。

